

# 第3期酒田市地域福祉活動計画 評価について(報告)

社会福祉法人酒田市社会福祉協議会

## 1 酒田市地域福祉活動計画

- 「酒田市地域福祉活動計画」は、酒田市社会福祉協議会（以下、「市社協」）が進める地域福祉活動の行動指針であり、5年間の地域福祉活動について計画するものです。
- 「第3期酒田市地域福祉活動計画」では、「身近な地域での支え合いの仕組みづくり」と「地域福祉活動の担い手の確保と育成」を重点課題とし、「地域の課題を、地域と共に解決する」という視点に基づき、市社協が方策や事業を提案しました。
- 市社協では、これを毎年度、市社協事業計画に反映させ、活動を展開しています。

### (参考)中間評価と中間見直しの実施について(平成30年度実施)

「第3期酒田市地域福祉活動計画」は、平成28年度から令和2年度までの5年間（計画策定当初。コロナ禍のため、令和3年度までの6年間に延長）の計画ですが、計画期間の中間年にあたる平成30年度に事業評価（＝中間評価）を行い、必要に応じた見直し（＝中間見直し）を実施しました。

#### 中間評価

市社協事務局で自己評価を行い、市社協理事会・評議員会及び学区・地区社会福祉協議会への報告と意見聴取を行いました。

#### 中間見直し

「地域共生社会実現に向けた社会福祉法等の改正」や「成年後見制度利用促進法の施行」など期間中の法改正等に基づき、以下の具体的取組みと実施項目を修正・付加しました。

- 3-③地域での多機関協働による相談体制づくり等の検討【追加】
- 19-⑤地域の様々な生活課題への対応の強化【修正】
- 20-③「中核機関」（成年後見センター等）設置等に向けた働きかけ【修正】

## 2 第3期酒田市地域福祉活動計画（最終）評価の方法

評価は、第2期地域福祉活動計画及び平成30年度の中間評価の評価方法に倣って、24の具体的取組みとその実施項目(75項目、再掲を含む)毎に実施状況等を確認し、市社協事務局において、以下の通り、4段階の自己評価を行いました。

計画期間中に市社協が行った事業や取組みについて、

<b>A</b> 達成	具体的取組みを進めるため事業等を実施し、目標をほぼ達成している。
<b>B</b> 概ね達成	具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、まだ充分でなく、目標を概ね達成しているが、課題を残している。
<b>C</b> 一部着手	具体的取組みを進めるための事業等を実施した、または、実施したものの、不十分であり、目標を一部しか達成していない。または、検討段階等であり、課題の解決に至っていない。
<b>D</b> 未着手	評価時点では、検討や着手に至っていない。

### 3 各実施項目毎の評価

市社協事務局において実施状況等について、その「これまでに実施した取組み」や「課題」の確認とその検討を行い、自己評価を行った結果は別紙「評価票」(参考資料 1-2) のとおりです。

#### 【評価票の記載(見方)】

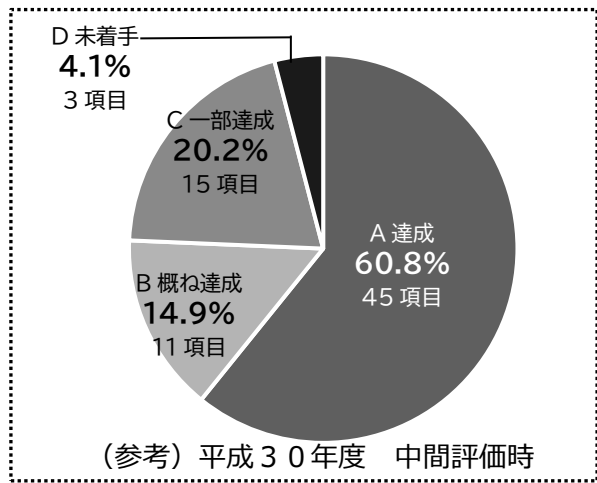
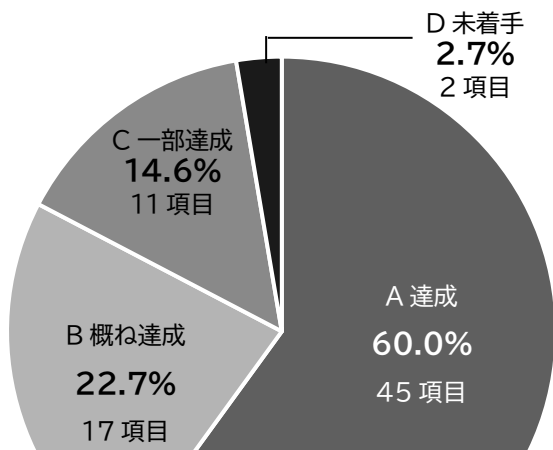
左ページ 計画本文

右ページ 今回の評価

<p><b>1) 新・草の根事業の包括的見直し</b></p> <p>「つながりを大切に共に支え合うまち」「安全で安心して暮らせるまち」</p> <p>II 地域福祉サービスの充実したまち</p> <p>III 世代をこえてひととこころをそだてるまち</p> <p>○口社協では、市内に34の学区・地区を組織し、住民同士の支え合いを基本とした「顔のまらぶくり」の実現を目指して新・草の根事業(学区・地区)川越富事業、見守りネットワーク支援事業、合同康修事業、ふれあい給食事業、刺繍あみしん事業、地域交流サロン事業、介護予防講座事業を実施しています。</p> <p>○これまでも、アンケート調査による課題抽出や補助金要綱を改正するなど、時代の変化と地域状況に合った事業の改善を行ってきたが、事業運営上の課題のすべてを解決するには至っていません。</p> <p>○今後、地域の福祉課題や状況を改めて確認し、包括的、技術的に新・草の根事業を見直しとともに、より多くの市民の方に参加、協力いただける事業を目指して、周知の徹底を図ります。</p> <p><b>新・草の根事業の課題 ～事業運営の中で地域の声～</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見守りネットワーク支援事業(人権・高齢者をめぐる見守り取組などを実施)             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の増加、見守り活動への参加、見守り活動の持続性、個人負担軽減、見守り活動の継続性</li> <li>合同康修事業(自給野菜、自給米、自給米の活用)             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の増加、見守り活動の持続性、個人負担軽減、見守り活動の継続性</li> <li>ふれあい給食事業(一人暮らし高齢者等への給食提供)             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の増加、見守り活動の持続性、個人負担軽減、見守り活動の継続性</li> <li>刺繍あみしん事業(一人暮らし高齢者等への刺繍提供)             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の増加、見守り活動の持続性、個人負担軽減、見守り活動の継続性</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p><b>アンケート結果</b></p> <p>あなたは社会福祉協議会が実施している各事業についてご存知ですか。</p> <p>新・草の根事業 10.4% 知っている 89.6% 知らない</p> <p>新・草の根事業については、1割程度の方にしか知られていない現状があります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①新・草の根事業の包括的見直しの実施</td> <td>実施計画</td> <td>現状分析、関係機関・団体等との協議と検討</td> <td>見直し内容の決定</td> <td>見直し後の実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②新・草の根事業の周知</td> <td>周知方法の検討</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>見守り活動実施</td> </tr> </tbody> </table> </li></ul>	実施項目	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	①新・草の根事業の包括的見直しの実施	実施計画	現状分析、関係機関・団体等との協議と検討	見直し内容の決定	見直し後の実施		②新・草の根事業の周知	周知方法の検討				見守り活動実施	<p>第3期酒田市地域福祉活動計画 評価 A:達成 B:概ね達成 C:一部達成 D:未着手</p> <p>【これまでに実施した取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成28年度に市の地域福祉事業の実態把握のため、市健康課、子育て支援課、介護保険課との勉強会を行った。</li> <li>○平成29年度に全学区・地区でヒアリング会を開催、事業の実施状況や地域ごとの課題を確認した。</li> <li>○令和元年度にふれあい給食事業において「主食以外の補食も補助対象とする」「補助単価の引き上げ」などの改善を行った。</li> <li>○コロナ禍での事業実施にあたり、市社協の方針や留意事項、事例紹介など、郡、学区・地区社協への情報提供を行った。</li> </ul> <p>①新・草の根事業の包括的見直しの実施</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見守りネットワーク支援事業について、災害時要援護者台帳、避難行動要支援者名簿との統合等をめざした市福祉課との協議を始めているが、統合等に至っていない。</li> <li>○事業の実施状況や地域ごとの課題の確認の結果、地域ごとの実施状況や考え方、見直しに対する意向に差違があり、これまでの統一な事業実施は困難であると考えているが、見直し案の提示に至っていない。</li> <li>○コロナ禍で地域での多くの事業が中止・自粛となる中、会報を通じたコロナ禍での工夫した活動の事例紹介などを行ってきたが、市社協独自の取組みの具体的な提案には至っていない。</li> </ul> <p>②新・草の根事業の周知</p> <p>【これまでに実施した取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自治会長研修や合同会議、学区・地区社協総会等の場で説明した。</li> <li>○新自治会長研修会では、事業説明に加え、見守りネットワーク支援事業での自治会長の役割についての説明を行った。</li> <li>○会報ふれあい等を通して広く事業内容を紹介した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域福祉に関するアンケート調査」では、新・草の根事業を実施する学区・地区社協認知度(「名前も活動もよく知っている」と回答した割合)は約4割に留まっており、前回調査(平成28年度)の約3割に比べ、増えているものの、過半数に知られていない。</li> <li>○事業そのものが関わり合いから見えにくいため、多くの住民に理解いただける事業の工夫が必要と考えられるが、検討に至っていない。</li> </ul>
実施項目	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度														
①新・草の根事業の包括的見直しの実施	実施計画	現状分析、関係機関・団体等との協議と検討	見直し内容の決定	見直し後の実施															
②新・草の根事業の周知	周知方法の検討				見守り活動実施														

### 4 評価の結果(まとめ)

評価結果は以下のとおりです。



## 5 計画期間中の市社協での新たな「取組み」など（評価票より抜粋）

### 福祉協力員研修の充実

○令和元年度に実施した研修会では、地域での見守り活動での気づきをテーマに、消費者被害や児童虐待を含む見守りの研修を実施した。



### 地域での新たな支え合いの仕組みづくり支援

○琢成、日向、南遊佐の地域支え合い活動への支援や介護予防・日常生活支援総合事業の活用支援等を継続している。

○平成 28 年度には亀ヶ崎、平成 29 年度には松陵での地域支え合い研修会の開催とその支援を行った。

### 新たな制度外サービスの事業実施

○困窮者に対するフードバンク事業、車いすの日和山公園桜まつりでの貸し出し、買い物支援等を目的とした「満福市にいだ」の開催などに取り組んだ。

### 地域主体による子育て支援の実施

○令和元年度より、県子どもの居場所づくりネットワークに参加、その応援団体として、助成情報の提供やコーディネーター研修の受講などさらに積極的な支援を進めている。

### 福祉版出前講座、体験講座などの機会づくり 社会福祉法人協働による地域公益活動の実施

○令和 2 年度より市内社会福祉法人の連携・協働による取組みとして、「ふくし出前講座・ふくし共育出前講座」を開始した。



### ボランティア・市民活動への参加促進

○平成 30 年度よりボランティアセンターと市公益活動支援センターを統合し、一体的な運営を行い、更なるボランティア・市民活動の振興を図っている。

### (ボランティア)センター周知による利用促進と情報発信

○ボランティア・公益活動センターの愛称を公募、親しみやすい「ボラポートさかた」とし、センター利用促進を進めている。

### 災害時の協力体制づくり(ネットワーク)

○令和元年台風 19 号豪雨の被災地である宮城県大崎市、丸森町の災害ボランティアセンターに職員を派遣、他県とのネットワークを広げた。



### (生活自立支援センターさかたでの)自立相談支援事業の受託継続 困窮者早期発見や見守り等地域での取組実施

○コロナ禍で急増した特例の総合支援資金貸付や住居確保給付金の申請、生活困窮にかかる相談に対応している。令和 3 年度より担当職員を 1 名増やし（内部での異動）、体制の強化を図った。

○コロナ禍以降、プレスリリースやチラシの作成など相談窓口の周知を積極的に行い、ゴールデンウィークや年末年始の長期休業中に臨時窓口を開設するなど困窮者の支援を行った。

## (福祉サービス利用援助・法人による成年後見)事業利用者の増加に備えた実施体制の充実

○認知症高齢者の増加などを背景とした事業利用者の増加に対応するため、生活支援員の募集・増員したほか、社協担当職員を1名増やし、事務担当職員を新たな雇用するなど体制を強化、権利擁護の推進を図った。

## 6 計画期間中に「検討や着手に至らなかったもの」など（評価票より抜粋）

### 新・草の根事業の包括的見直しの実施

#### 新・草の根事業(見守りネットワーク支援事業やふれあい給食事業など)の周知

○コロナ禍で地域での多くの事業が中止・自粛となる中、会報を通じたコロナ禍での工夫した活動の事例紹介などを行ってきたが、市社協独自の取組みなど具体的提案には至っていない。

○事業そのものが関わりのない方から見えにくいため、多くの住民に理解いただける事業の工夫が必要と考えられるが、検討に至っていない。

#### (見守りの)個人情報対応に関するルール、対応策検討

○(見守りの)情報の共有等について同意を頂けない方への対応と見守り方法についての協議・検討に至っていない。

#### 地域での新たな支え合いの仕組みづくり支援

○「市介護保険課や生活支援コーディネーターが中心となって進める地域住民を主体とした介護予防・日常生活支援総合事業のB型の仕組みづくり」や「市まちづくり推進課が進める地域計画(ビジョン)策定」など地域支え合い活動と同様の目的や手法の地域づくり支援について、それぞれの支援関係者間での調整途上にある。

#### 子育て支援団体・機関との連携と協働の実施

○新・草の根事業の包括的な見直しや保育所等児童関係施設を運営する社会福祉法人の「地域における公益的な取組」での協働も含め、地域と連携した子育て支援ができるよう関係機関・団体と検討を行う必要があるが、検討や実施には至っていない。

#### 福祉活動参加促進のための仕組みづくり

○地域活動の担い手・リーダーが固定化、高齢化する傾向を改善するための仕組みづくりの検討には至っていない。

#### (共同募金運動の)市民参加策検討

○助成先選定への市民参加策の先進事例の調査や検討、実施に至っていない。

### 次期第4期酒田市地域福祉活動計画の策定に向けて

市社協では、人口減少や世帯構成の変化などの地域状況、第3期酒田市地域福祉活動計画で検討や着手に至らなかった事柄、「地域福祉に関するアンケート調査」結果や意見聴取会、そして、懇話会での意見などを踏まえ、市の地域福祉での課題を改めて捉え、次期第4期酒田市地域福祉活動計画の骨子づくりなどを進めてまいります。